

データセンターあとがき

今年度も、全国の移植登録施設のみなさま、関係者のみなさまのご尽力により、全国調査報告書が発行できることとなりました。

2014年1月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、これに基づき日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）が「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」を国の支援のもと担うこととなり、9年が経過しました。2020年1月にリリースされました第二世代移植登録一元管理プログラム（TRUMP2）の version 2.4 では、約 600 の新規調査項目が追加され、レジストリ調査項目としてさらに充実したものとなりました。2022 年度全国調査でも 350 を超える全国の移植診療科からのご登録をいただきました。同種造血細胞移植後の重要な合併症である、移植片対宿主病（GVHD）に対する新規治療薬の開発を踏まえ、2022 年 10 月には GVHD に関する詳細情報収集のための GVHD レジストリ（TRUMP-GVHD）をリリースしました。主に外来で実施される慢性 GVHD に対する治療情報の登録とデータ管理は容易ではありませんが、貴重なリアルワールドエビデンスを生むデータベースとしての期待に応えられるよう、我々も尽力していきたいと思っております。

造血細胞移植レジストリが造血細胞移植と細胞治療のレジストリに発展的に拡大し、遺伝子改変 T 細胞（CAR-T）治療などの新規細胞治療情報を収集するためのシステムとして、さらに日欧米における相互互換性を有するレジストリ入力システムとして国際造血細胞移植研究機構（CIBMTR）の Web 登録システム FormsNet の日本語バージョンが 2020 年にリリースされました。2023 年 2 月現在 89 施設の施設登録が完了しています。

レジストリデータの利活用は増加、また多様化してきています。データ収集と管理およびデータの利用管理を担う JDCHCT 造血細胞移植登録一元管理委員会、日本造血・免疫細胞療法学会（JSTCT）ワーキンググループ（WG）の運営と WG が実施する研究を管理する JSTCT 造血細胞移植登録一元管理委員会の委員長、委員の方々にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。日本発のレジストリデータを用いた解析結果をご紹介する研究業績紹介 web ページには、約 500 の論文成果が紹介されました。これらが次の移植医療に反映されていく現状を踏まえましても、レジストリデータの質の担保にさらに力を入れていく責務を感じております。

全国の登録施設のみなさま、関係者のみなさまが必要とされるものに、一つ一つ丁寧に取り組み、造血細胞移植と細胞治療の発展に、データセンターとして貢献ができるよう努力してまいります。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

日本造血細胞移植データセンター	センター長		熱田由子
	統括管理部		大引真理恵
	データ管理部	システムグループ	坪井秀樹、浅野充洋
		統計解析グループ	倉田美穂、柳澤昌実
		データマネジメントグループ	伊藤千佳、坂井志帆
			桜井友実、田畑藍、松原奈津希
			小林静香、水谷典子、安形彩
	法人管理部		松原有希、山田達也、若杉雅美
			中北みどり、加藤里美